摂南大学　甲良町との連携事例

自治体の課題（ニーズ）



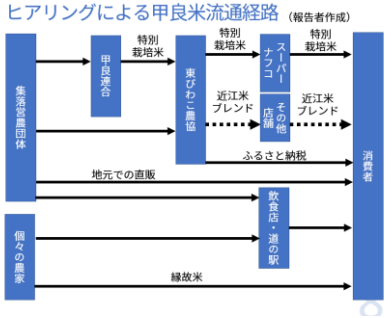
甲良町は滋賀県東部に位置する自治体で、県内で最も人口が少ない。様々な課題を抱える中で、ふるさと納税の獲得額が近隣自治体に比べ少ないことが課題となっている。財源が限られる中、ふるさと納税の拡大は必要不可欠であるが、対応が遅れていた。

町の主な産業は農業であり、鈴鹿山脈を水源とする犬上川の水を利用して栽培された甲良米は、江戸時代から彦根藩の中では評判の「上品」とされてきた。町でも、ふるさと納税の返礼品として出品しているが、知名度不足も相まって獲得額の向上には寄与できていない。

そこで、甲良米のブランド化を中心に、ふるさと納税の獲得に向け、協力をお願いしたい。

研究成果（シーズ）の還元





昨今、ふるさと納税への注目は日増しに大きくなっている。しかし、その分自治体間競争が激しくなっており、獲得できる自治体とそうではない自治体の格差が広がっている。

地場産品のブランド化はそう簡単なものではないが、まずは町内での影響力を図るため、町内での甲良米の流通状況をオンラインツールを活用し調査することとした。具体的には、生産者や関係団体などにヒアリングを行ったほか、甲良米の販路を調べ、町民にとっての甲良米の位置づけを図った。他方、並行して、同町へのふるさと納税寄付者の属性分析や寄付者へのアンケート調査をICTツールを活用し実施した。

調査結果をまとめた後、町長に対し、ふるさと納税での拡販を含めた今後の販路拡大やブランド向上について提案を行い、今後の町内での検討に資した。

■　この連携に携わった研究者



国際学部
小林　基　講師

（研究者からのメッセージ）

今回の取り組みでは、現地での調査や住民の方々との対話を通じて、「共に考え作る」ことの重要性をあらためて実感しました。今後も、こうした連携を通じて、地域社会に貢献できる実践的な教育・研究を展開していきたいと考えています。

※　研究者の経歴等は（URL：https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teacher/detail/93）をご参照下さい。